

IFUW Update 2014年10月29日号

世界の主なニュース

ジェンダー平等の達成は2095年?! (世界経済フォーラム 10/28 ブログ)

世界経済フォーラムが最近発表した「2014年世界ジェンダーギャップ報告書」[Global Gender Gap Report 2014](#)によると、ジェンダー格差の完全な解消にはまだ81年かかり、2095年になるかもしれない、という。健康、教育、経済、政治におけるジェンダー格差を男女比で見ると、教育の分野が1対0.96で格差が最も少なく、1対0.21という政治的エンパワーメントの格差が最も大きい。政治への女性の参画は前回の2006年の公表時よりは伸展し、「9年前より女性国会議員は26%、女性大臣は50%増加した」が、幾つかの国々では部門によって格差が拡大していることに懸念が高まっている[Read more](#)。

「停戦」といつつ、殺戮を続けるボコ・ハラム (CNN 10/23)

ナイジェリア政府はイスラム教集団ボコ・ハラムと停戦に合意したと言うものの、誘拐された200人の女生徒の帰宅はいまだ実現していない。それどころか10月にはナイジェリア北東部のキリスト教徒の村でさらに60人の女性と女兒が誘拐されたようだ。現地語で「西洋教育は罪」という意味のボコ・ハラムは、2009年からテロ活動を始め、今年は暴力をことさらエスカレートさせ、幾千人も殺害している。詳細は [here](#)

語られず、表に現れにくいDV (ハフィントン・ポスト・ウイメン 10/21)

身体的暴力だけでなく、経済的束縛も憂慮すべきDVであり、女性が被害者となりがちだ。経済的虐待、すなわち一方が他方を家計に触れさせないことが女性虐待の関係に陥れる決定的な役割を果たす、との見方で専門家は一致している。経済的虐待には、虐待者が(相手の)仕事を妨害する、家計を牛耳る、借金をつくる、金銭を与えたり与えなかったりして経済的不安感を植えつける等がある。[Read more](#)。IFUWでは女性と女兒への金銭教育の重要性を訴え、虐待の低減、金銭的独立の達成を目指している。IFUWのプレス・リリースは[here](#)

科学・技術・工学系女性の離職率が高いのはなぜ? (Fast Company 10/15)

科学・技術・工学系に就職した女性が1年目で辞める割合が男性より45%も高い理由として、孤独感、偏った評価、メンター不足が上位を占める。[Center for Talent Innovation](#)によるこの研究は、男性優位の同分野で女性が疎外感を持つ要因として「いまだに続く『男の世界』的態度」を強調した。調査対象となった女性の72%が実績評価でジェンダー差別的な評価を受けたと答え、ことに工学系分野では88%の女性が批判的意見をされたとし(男

性は 59%)、女性社員は「邪魔者扱い」だと感じているという。 [Read more](#)

なぜ女子には女子校がよいか (フォーブス 10/15)

調査によると、女子校で学ぶ女子の方が「より積極的で、能力と競争力を発揮する」——「男子が不在のため」女子がリーダーシップを磨ける環境なのだという。専門職や起業に進むには、中等教育のカリキュラムにビジネス、技術、工学などのスキルに基づいた学習の導入が肝要だ。実際、企業は女性管理職が増えることで強くなり、コミュニケーション能力から言うと女性がリーダーをつとめるチームの方がよい結果を出す。 [Read more](#)

ラテンアメリカ、カリブ地域の少女があぶない——ユニセフ (ラテンアメリカン・ヘラルド トリビューン 10/9)

ユニセフが国際女兒デーを機に報告書を出し、ラテンアメリカの思春期の女兒に関して以下の点で危惧を表明した——「差別、早期の結婚と妊娠、ジェンダーによる暴力、家事労働、性的搾取、人身取引、医療アクセスの不足、限られた教育機会」。特に十代で妊娠する割合の高さが問題であり、この地域の全出産のうち十代の母親は 20%を占めている。詳細は[more](#)

衛生環境の悪さに苦しむインド女性 (MSNBC 9/24)

WHOの推定では、学校の上下水道の不備のため世界で18億日分の登校日が失われている。インドでは蚊のまん延、生理用品の不足、学校に石鹼がないことが特に女兒にとって問題で、しばしば学校を休む理由になっているという。加えて水くみが女性や女兒の責任とされ、長距離を歩かねばならない場合も多いため、それによって登校できない時間が年間400億時間にもものぼるという。ビデオ・レポートは[here](#)

十代の少女らが射止めたグーグル科学賞——世界の飢餓問題を解消するか (ハフィントン・ポスト・ウィメン 9/25)

アイルランドの三人の十代の少女が行った、大麦やオーツなどの穀類の発芽ピッチを速めて全体的収率を引き上げるという独創的な研究が、グーグルの世界科学技術コンテストのグランプリに輝いた。11ヶ月にわたり125回の実験をした三人の頑張りが、この栄えある科学賞によって認められたのであり、増大する食糧問題の解決に大きく貢献するものと期待されている。 [Read more](#)

